

八清親和会 自治会役員の一とり言

令和3年7月14日

No31

八清親和会 副会長

吉田祐治

自治会“八清親和会”の、IT(情報技術)・デジタル化の第1ステップは、2年前に終わり、昨年・現在と、その成果を活用、享受しています。

最近、政府のデジタル庁発足や新型コロナウイルス感染拡大により、自治会のIT・デジタル化や活用についての言葉が躍っているが、八清親和会から見れば、この課題はいま突如として浮上したり、重点項目に乗るようでは今まで何を行って来たかである。

参考に、八清親和会が取り組んできた自治会のIT・デジタル化の実施経験者としてのつづやきです。参考になれば。

筆者も参加した経験から、以前から昭島自治連主催の自治会会長集まりのワークショップなどで、自治会の問題・課題提起を行うと相も変わらず毎回同じことが出てくるが、この内容の裏に潜んでいる解決策の一つに「IT・デジタル化」があることを今の自治連役員・ブロック長ならびに自治会会長が気づいていないこと自体が問題である。もし気づいているならば何故「IT・デジタル化」が解決策として出てこない、またクローズアップされてこないのか。

八清親和会は、7年前(平成25年)一役員で改善・改革をスタートさせるに当たって、1年掛けて収集・分析した自治会の問題・課題のまとめの中で、若い世代、現役世代との会話で、以下2つの問題点の重要性を認識した。他の自治会も同様と思われる? また、把握していますか?

◇民間企業では当たり前前の「IT・デジタル化」は、自治会では全く遅れており、相も変わらず、自治会内や自治会が市に提出する書類等は、ペーパー・鉛筆の世界であり。会報といえ、年数回しか発行しない古新聞同様の内容や情報が主体で、また、役員の会議・委員会などの協議や情報交換は、非効率な対面接触や行政団体的な旧態依然の、開催することに意義があると思えない運営が、まともな世界としてまかり通っていました。筆者自身も当初驚いた。

もちろん、PC・スマホ時代に育ってきた若い世代や現役世代の、企業では当たり前前のPC、スマホ使用から見れば、今まで自治会役員をやってこられた方や、今役員を担っている方には申し訳ないが、若い世代や現役世代から自治会の世界は、IT時代からかけ離れた旧き昭和時代の、タイムスリップしたノスタルジックな世界と思われても仕方がない環境が現実である。筆者も全く同感である。

◇自治会に若い世代や現役世代が加入しない、あるいは行事・活動に参加しない要因の一つに、このような、ペーパーや集まらなければ進まない旧態依然の形式的な協議や情報交換などの考え方、運営に失望し、興味をなくし、また関わりたくないなど、自治会に魅力を感じていないことも大きな原因である。

そして「自治会＝昔のダサイ町内団体」のイメージが重なり、若い世代が自治会を敬遠している原因の一つであることも改めて認識したのである。

八清親和会の改善・改革を進めるに当たり、これらの若い世代や現役世代の自治会に対する見方を参考にして、如何に若い世代や現役世代を取り込むか、を考え取り組みポイントに以下、2テーマを加えた。

◇IT(情報技術) 時代に合った自治会への変革

IT・デジタル化を改善・改革の手段として、ITをツールとし、手書きやアナログ(ペーパー等)を電子化し、ペーパーレス、効率化、迅速化、見える化、統一化するなどの活用を推進し、改善・改革を加速させると共に、成果を定量・定性的に把握でき、目に見えるようにする。

◇自治会の風土を変えれば、必ず自治会は変わり、活性化する

即ち 民間企業の経験とスキル、知識（考え方・運営・組織・体制・取り組み・仕組み）を取り込めれば取り込むほど、自治会は変わる。この手段としてもIT・デジタル化が必要不可欠である。

次に、改善・改革の中での「IT・デジタル化」の位置付けと求める成果である。

八清親和会の「IT・デジタル化」の基本は“IT・デジタル化は手段であって、目的ではない”

この「IT・デジタル化を推進・活用して、自治会の改善・改革を加速させ、その成果を出すことと、時代に即した自治会にする」ことであった。

このように「IT・デジタル化」をしっかりと理解していれば、おのずと何をすれば良いか、到達目標は何かははっきりするはずである。間違っても何を行うのか分からない曖昧な言葉表現だけの取り上げ方や、「IT・デジタル化」の使い方を誤らないことである。

ではなぜ、八清親和会は今回の改善・改革のIT・デジタル化を「第1ステップ」と位置付けたか、の理由は以下の通りである、

◇自治会の「IT・デジタル化」の究極目標は「役員始め、全会員がPC、スマホ等によるITツールを使い、ペーパーレス、電子化による自治会業務・事務や会員とのやり取りができる環境にする事と、この恩恵を享受すること」である。

◇この目標に到達するには、現在の若い世代や現役世代が、自治会の中核を担う時代が訪れる事と、最低でも役員は全員、会員は75%以上がPC・スマホが使えるような自治会会員構成にならなければ到達できない。また年数も掛かる。

◇したがって現状からは、まずペーパーレスと効率アップ、スピードアップ、見える化、統一化を主体にしたIT・デジタル化をスタートさせた。

1. 文書・書類・資料作成等の手書き・ペーパーから「電子文書」にして、作成の効率アップ、スピードアップ、統一を図る。
2. 文書・書類・資料のペーパー保管・管理から「電子文書」「電子化文書」で集中保管・管理、ならびに検索の効率アップ・スピードアップを図る。
3. 会報・行事实施報告の電子化による作成のスピードアップ、効率化、作成者負担の軽減、会報発行回数の増加を実現する。
4. 電子マニュアル、電子化による作業・行動の標準化、誰にもできる単純化、プロセスの見える化、形骸化の防止を行う。
5. デジタルデータの収集・分析・加工・発信の効率アップ、スピードアップを図る。

◇次に、IT・デジタル化の段取り、手順である。詳細は添付資料の「自治会”八清親和会のIT（情報技術）・デジタル化 [第1ステップ]」を参照してください。概要は以下、

1. IT・デジタル化の取り組みに当たっての準備（人・物・仕組み）
2. IT・デジタル化をする主な内容
3. IT・デジタル化の成果
4. IT・デジタル化成果の享受 である。

これをしっかりと準備、明確にすれば成功する。成功しないのは準備のどれかが欠けているか、明確にすべき項目・内容が不明確のためである。

◇八清親和会のIT・デジタル化第1ステップは、このように令和1年で終了し、そのデジタル化やデータ利用によって向上する全ての自治会行事・活動や運営で、その成果を享受している。

◇そして、令和2年に自治会が今まで経験しなかった新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、自治会行事や活動の中止、自粛に追い込まれたが、この新型コロナウイルス感染拡大も非接触型のデジタル化にさらなる弾みをつけた。 以上

自治会“八清親和会”のIT（情報技術）・デジタル化 [第1ステップ]

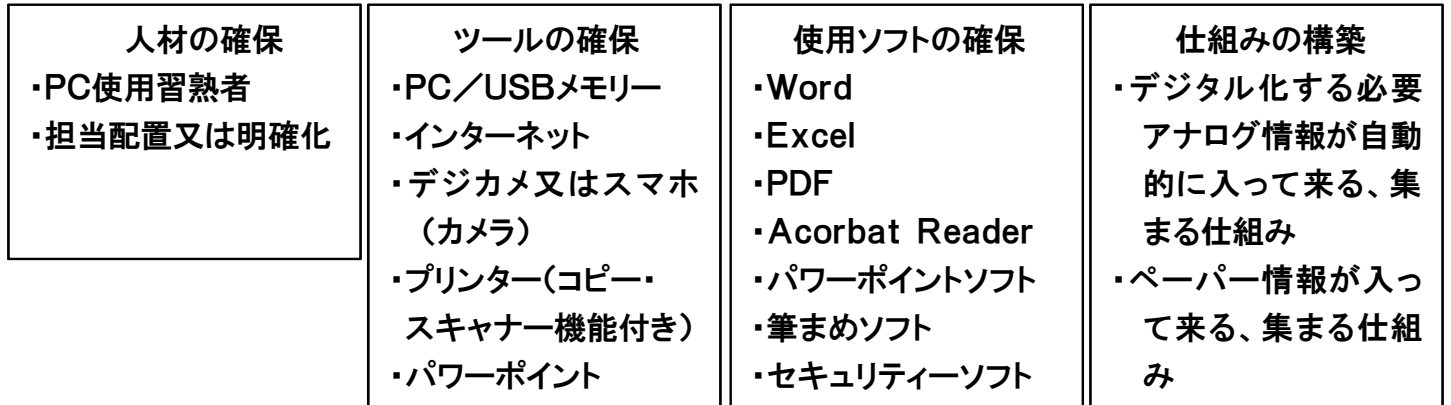
八清親和会6年間の改善・改革の中でのIT・デジタル化の基本は、

◇IT・デジタル化は手段であって、目的ではない。

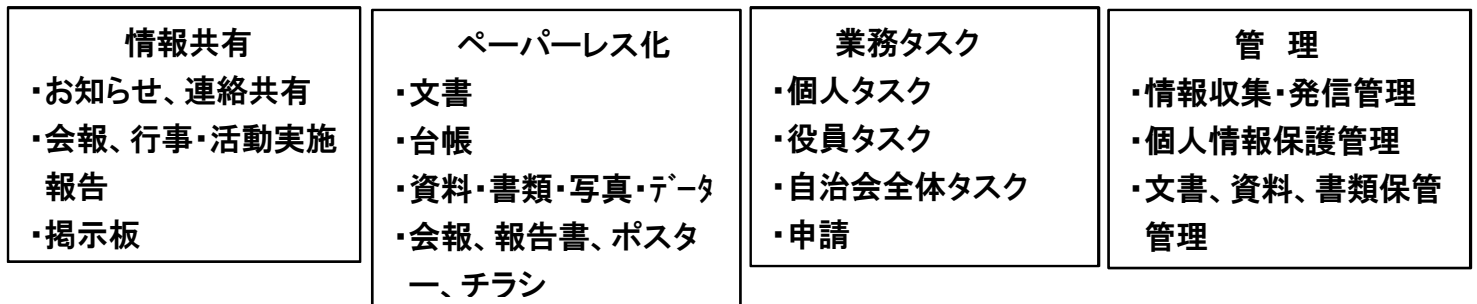
◇デジタル化を意識しない自治会を目指す。

この2つを念頭に、IT・デジタル化を推進・駆使して、改善・改革を加速させ、この成果を現在は、活用し享受している。

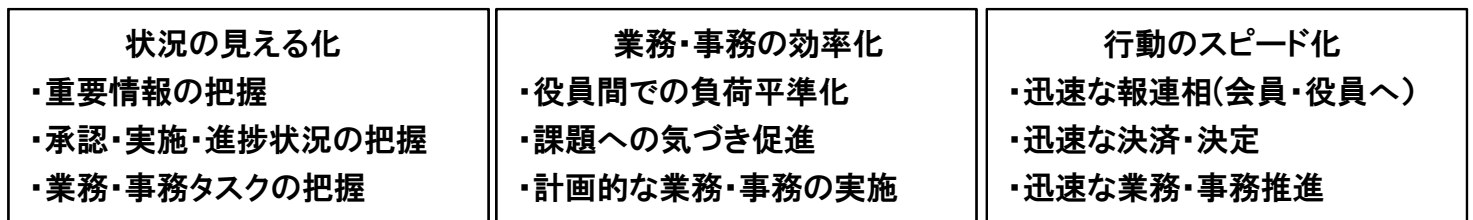
[1. IT・デジタル化の取り組みにあたっての準備]



[2. IT・デジタル化をする主な内容]



[3. IT・デジタル化の成果]



[4. IT・デジタル化成果の享受]

